

日本環境感染学会教育ツール Ver. 3 の公開にあたり

(2013 年 3 月 1 日公開)

(2015 年 6 月 15 日一部修正)

(2016 年 8 月 1 日一部修正・追加)

(2017 年 9 月 15 日追加)

(2019 年 5 月 16 日一部修正)

日本環境感染学会教育委員会 委員長 森兼 啓太
教育ツール担当 副委員長 佐和 章弘

この度、日本環境感染学会教育委員会では、感染制御に関連する変化に対応すべく従来のスライド教材である「教育ツール Ver. 1」の改定を行い、日本環境感染学会教育ツール Ver. 3 として公開致しました。

(2015 年 6 月、内容を一部修正し、Ver. 3.1 としました)

(2016 年 8 月、内容を一部修正および追加して、Ver. 3.2 としました)

(2017 年 9 月、Ver. 3.2 に「27. 口腔内細菌コントロールによる感染予防」を追加しました)

(2019 年 5 月、Ver. 3.2 を一部修正しました)

今回、修正したツールは、以下の 23 ツールです。

01. 総論、02. 標準予防策、03. 感染経路別予防策、04. 手指衛生、
05. 手術部位感染予防、06. 尿道カテーテル関連尿路感染予防、
07. 人工呼吸器関連肺炎予防、08. 血管内留置カテーテル関連血流感染予防、
09. 抗菌薬の適正使用、10. 薬剤耐性菌対策、11. 医療関連感染サーベイランス、
12. アウトブレイク調査、13. 針刺しおよび血液・体液曝露防止、
14. 水痘・麻疹・風疹・流行性耳下腺炎、15. 結核の感染予防、
17. 洗浄・消毒・滅菌、18. 医療廃棄物、19. リネンの管理、20. 環境整備、
21. 消化器感染症、22. ノロウイルス感染症、
24. 微生物検査に適した検体採取と感染対策、
27. 口腔内細菌コントロールによる感染予防

・PDF 版と PowerPoint 版の内容は同一です。

・PDF 版のファイルは内容を変更することはできませんが、日本環境感染学会会員でなくともダウンロード可能になっています。

・PowerPoint 版のファイルは変更することが可能ですが、日本環境感染学会会員のみダウンロード可能です。ダウンロードには ID (学会の会員番号 10 桁、ハイフン無し) と生年月日 (西暦年 4 桁・月 2 桁・日 2 桁、ハイフン無し) の入力が必要です。

【目次】

- 1 総論
- 2 標準予防策
- 3 感染経路別予防策
- 4 手指衛生
- 5 手術部位感染予防
- 6 尿道カテーテル関連尿路感染予防
- 7 人工呼吸器関連肺炎予防
- 8 血管内留置カテーテル関連血流感染予防
- 9 抗菌薬の適正使用
- 10 薬剤耐性菌対策
- 11 医療関連感染サーベイランス
- 11-1 サーベイランスの演習 SSI データの集計・解析
- 12 アウトブレイク調査
- 13 針刺しおよび血液・体液曝露防止
- 14 水痘・麻疹・風疹・流行性耳下腺炎
- 15 結核の感染予防
- 16 インフルエンザ
- 17 洗浄・消毒・滅菌
- 18 医療廃棄物
- 19 リネンの管理
- 20 環境整備
- 21 消化器感染症
- 22 ノロウイルス感染症
- 23 臨床微生物学基礎編
- 24 微生物検査に適した検体採取と感染対策
- 25 高齢者介護施設における感染対策
- 26 内視鏡の感染対策
- 27 口腔内細菌コントロールによる感染予防

【注意事項・免責事項】

- ・本ツールの著作権は、日本環境感染学会に帰属します。
 - ・ユーザーは、医療従事者や職員の教育や指導を目的とする場合、自由に使用可能です。
 - ・日本環境感染学会会員向けには自施設内にカスタマイズ可能な PowerPoint 素材が用意されています。
 - ・商用のための複製、公開、送信、頒布、譲渡、貸与、翻訳、転載、再利用を禁じます。
- ただし、商用出版物において本ツールの内容を引用する場合、「日本環境感染学会教育

ツール Ver. 3.2 より引用」と明記することにより、利用可能です。

【製作・編集者】

〔日本環境感染学会教育委員会教育ツール部会委員〕

内山 正子、栗原 英見、佐藤 智明、佐和 章弘、塚田 真弓、森兼 啓太、
山崎 博史（50 音順）